

秋のわだいに満載！

受章おめでとうございます — 危険業務従事者叙勲、秋の褒章・叙勲 —



早坂 保男 さん
川原町・74歳
瑞宝双光章
元天草消防組合消防司令長



田中 正友 さん
亀場町亀川・78歳
藍綬褒章
県指定自動車教習所協会会長



千葉 芳茂 さん
下浦町・64歳
藍綬褒章
保護司



久保 進一郎 さん
有明町大浦・76歳
旭日小綬章
元有明町長



竹口 英園 さん
河浦町新合・83歳
旭日双光章
元河浦町教育委員会委員長



中村 矩眞 さん
小松原町・80歳
旭日双光章
元天草郡市医師会会長

危険業務従事者叙勲が10月12日に、秋の褒章と叙勲が11月1・2日にそれぞれ発表され、市内から6人の方が受章されました。おめでとうございます。

※写真下は氏名、住所、年齢、受章種別、主要経歴。受章種別の◎は危険業務従事者叙勲、◎は秋の褒章、◎は叙勲。

10月から11月にかけて、市内各地でさまざまな催しが行われました。今号では、「天草大陶磁器展」などの催しのほか、秋の褒章・叙勲などを受章された皆さんをご紹介します。

陶磁器の島に多くの人出！ — 天草大陶磁器展 —

県下最大級の陶磁器展「天草大陶磁器展」が11月1日から同5日まで、天草市民センター体育館を主会場に開催されました。

この大陶磁器展では、天草島内をはじめ、県内外から71の窯元や陶芸家などの作品約15,000点を一堂に展示・販売。期間中、約27,000人が会場を訪れ、熱心に品定めしていました。

また、初日には同センターホールで“陶磁器の島AMAKUSA陶芸展”の表彰式とパネルディスカッションを実施。パネルディスカッションでは「個性を考える」をテーマに、パネリストの女優の宮沢りえさんや陶芸家の黒田泰蔵氏、アーティストの日比野克彦氏、本市出身のイラストレーター・鶴田一郎氏などが、仕事への思いなどについて語りました。

なお、今年度は、黒田泰蔵氏など一流の芸術家を招き、地元陶芸家との交流を図る“アーティスト・イン・レジデンス in AMAKUSA”も実施。同2日には、黒田氏による公開制作やアーティストトークなども行われました。



▲作品を手に取りながら熱心に品定め ▲ろくろ回しに挑戦



▲パネルディスカッションには女優の宮沢りえさんも参加 ▲期間中は約27,000人が来場！

【陶磁器の島AMAKUSA陶芸展結果】(敬称略)

- グランプリ…該当者なし ●準グランプリ…六平(本名・長澤一則/佐賀県武雄市) ●日比野克彦賞…小松野洋介(上天草市) ●小川哲男賞…里見武士(福岡県東峰村) ●藤原恵洋賞…望月優(佐賀県有田町) ●鶴田一郎賞…安倍伸子(合志市) ●黒田泰蔵賞…鈴木美加(天草市天草町) ●宮沢りえ賞…出口文教(熊本市) ●来場者賞…太田富隆(福岡県東峰村)

天草・島原の乱で亡くなった人々を慰霊 — 天草殉教祭 —

10月21日、1637年に起きた天草・島原の乱で亡くなった人々を慰霊する「天草殉教祭」が行われました。

殉教戦千人塚で仏式法要とカトリックミサがそれぞれ行われた後、夕暮れにはキャンドル行列が行われ、信徒や市民など約400人がキャンドルを手に市街地を行進。乱の激戦地となった町山口川に架かる祇園橋では、キャンドルの幻想的な明かりが灯る中、亡くなった人々の慰霊と平和への祈りを捧げていました。



▲マリア像に花びらをかける子どもたち

心をさらに豊かにする読書 — 子ども読書フェスティバル —

10月27日、「子ども読書フェスティバル」が天草市民センターホールで行われました。五和東中学校の生徒が「千の風になって」の演奏と朗読を、本渡中学校の生徒が“ことば”にまつわる劇を披露した後、直木賞作家の重松清氏が講演。重松氏は「読書ばかりしていて友だちがいないというのは心が豊かとはいえない。読書はさまざまな経験を積んだうえで、心をさらに豊かにするもの」と語られ、約700人の聴衆は熱心に聞き入っていました。



▲重松 清氏



▲熱心に聞き入る皆さん



▲福連木の子守唄を披露する保存会の皆さん

心に響く子守唄に耳を傾ける — 福連木子守唄 & 童謡まつり —

子守唄の保存・継承に取り組んでいる福連木地区で11月11日、恒例の「福連木子守唄 & 童謡まつり '07 in 天草」が開催されました。

会場の福連木子守唄公園には家族連れなど約3,000人が来場。福連木子守唄保存会による福連木の子守唄や五木の子守唄、大浦の子守唄など哀愁漂う歌声に耳を傾けました。また、各地区が構えた出店には地元の特産品が並び、ふるさとの味を買い求める人でにぎわっていました。



▲シンポジウムでは「天草の宝を探す」をテーマに意見交換

『五足の靴』は日本近代文学の始まり

— 五足の靴来島100周年「文芸講演会・シンポジウム」 —

11月10日、五足の靴来島100周年「文芸講演会・シンポジウム」が天草市民センターホールで開催され、市内外から約150人が参加しました。(社)天草宝島観光協会などの主催。講演会では、直木賞作家の出口根達郎さんが「若い青年たちが旅をしながら作り上げた『五足の靴』こそ、日本近代文学の始まり」と話されたほか、シンポジウムでは出口根さんや熊本保健科学大学の小野友道・学長らが、文学や映画を通じた天草の魅力について意見交換しました。